山協ニュース

岩手県山岳協会
第１９２号
平成 27 年 11 月 17 日発行
long-distance.jp/sangaku/

紀の国わかやま国体で少年男子
リード競技六位、ボルダリング競技五位入賞

第 70 回国民体育大会「紀の国わかやま国体」山岳競技は、10 月 3 日（土）から 5 日（月）の 3 日間、和歌山県みなべ町開催されました。岩手県は成年男子、少年男女の 3 種目に出場し、少年男子が健闘しリード競技六位、ホルダリング競技五位入賞を果たしました。

大会初日は、少年男子がリード競技、予選、決勝を行い、予選では選手強化の成果を如何なく発揮し、山内響選手(盛南)が完登、中島大智(花巻中)も、二つの大きな難関も突破、完登一歩手前で落下。しかし三位で通過。成年男子ボルタリングは藤原祐樹が一課題は完登するもあとはボーナスポイント止まり、ボルダリングを苦手とする昆　修太は、二課題のボーナスポイントのみ。予選順位 25 位とどまった。東北のトップとはいえ、全国の頂きは遥か遠く。

中学三年生コンビの国体初出場の少年女子ボルダリングは、田中里旺選手が２課題を一撃突破、吉田朱羽は１課題突破。強豪がひしめく中、初めての出場としては大健闘。来年の入賞が見えてきた。

少年男子リード決勝では、完登者が 5 名も出る中、響が健闘、あと一歩で完登を逃す。大会の雰囲気に慣れてきた中島大智も大健闘、二つの難関も突破。完登ルートに乗ったが無念の落下。しかし、来年のトップが見えてきた少年組の活躍であった。

成年男子リードは、昆修太が、運動公園リード壁での強化で地力を発揮。完登ペースに乗ったと思われたが持久力不足で落下。リードオフマンの藤原祐樹は、練習不足か不調。昆選手に遅れをとる。地の利を生かした集中的強化が急務。少年女子リードの中学生コンビは、最初の壁に手こずり 17 位と悔しい結果。成長過程で無限の可能性のある中学三年組。基礎体力と持久力をつけ、来年は表彰台を目指して頑張って欲しい。選手強化募金に協力してくれた皆さん、地元で応援してくれた皆さん。そして和歌山まで駆け付けて応援して下さったご家族の皆さんありがとうございました。

来年はいよいよ、希望郷いわて国体本番。全種別入賞を目標に頑張っていきます。皆さん

の変わらぬご支援をお願いします。

□出場　選手・監督

種　別	監　　督	選　手	選　手
成年男子	畠山　晃（羽田小）	藤原祐樹(岩手クラ)	昆　脩太（スポ振）
少年男子	新田亮一（岩手高校）	山内　響（盛岡南）	中島大智(花巻中)
少年女子	伊藤　圭（盛岡市職）	田中里旺（北松園中）	吉田朱羽北陵中）

□成　績

種　別	リード競技	ボルタリング競技
成年男子	21 位	25 位
少年男子	6 位	5 位
少年女子	17 位	15 位

このほか、今大会での東北勢の入賞は、宮城県成年女子(松島・三浦)リード種目での 4 位でした。

秋の叙勲で元協会会長出堀宏明氏 旭 日 双 光 章 受 賞

11 月 3 日発表の秋の叙勲で、元協会会長で名誉会員出堀宏明氏が旭日双光章を受賞しました。おめでとうございます。

出堀氏は、昭和 37 年から岩手県山岳協会理事、総務部長、副理事長、理事長、評議員、副会長、会長、顧問を長年にわたり歴任、現在、名誉会員。この間、本県山岳競技の普及向上に尽力し、社会体育の振興に多大な貢献。昭和 43 年から総務部長として岩手国体の準備の要職で昭和 45 年岩手国体の成功に貢献されました。

また、選手強化にも力を入れ昭和 55 年に山岳競技が国体正式競技になったのを機に、東北総体では数多く総合優勝をし、国体でも優勝をはじめ常に上位入賞をするなど、岩手県の天皇杯得点獲得に多大な貢献をした。

平成 10 年の登はん競技場の建設、平成 18 年のボルダリングルームの建設にも尽力されクライミング競技のレベルアップとスポーツクライミングの普及に努められました。この間、岩手県警察本部山岳救助隊講師を務めるなど山岳遭難事故防止に貢献するとともに、近年は、少年少女登山教室の講師として登山を通じて青少年の健全育成にも尽力されています。

宮城県山岳連盟から 県山協へ感謝状授与される。

10 月 9 日(金)、宮城県栗原市で開催された第 54 回全日本登山体育大会の開会式で、当協会に対して宮城県山岳連盟から感謝状が贈られました。

内容は、平成 23 年 3 月 11 日発生の東日本大震災に伴い、同年東北総合体育大会山岳競技開催県となっていた宮城県での開催が困難となり、宮城県山岳連盟からの要請に基づき、本県で開催したもので施設利用、大会運営、役員派遣等への協力により盛会裏に終了したことへの感謝の意でした。

全国から集まった参加者や各県岳連関係者からも被災地同志での協力に賞賛の声が上がりました。感謝状は、当日、日山協役員として出席していた高橋会長が宮城岳連相澤会長から受領しました。

岩登り講習会を展勝地で開催

8 月 29 日（日）北上市展勝地陣ケ丘で平成 27 年度岩登り講習会を開催。参加者は、佐藤誠（指導部長）土井祐之（指導部副部長）、田所一志、松山貴章（アルペンローズ）星晃、諏訪木秀夫、中島隆之、駒ヶ嶺智裕、高橋洋介、八重樫鶴代、菊池博文（北上山岳会）、吉田克彦（盛岡山想会）

の 12 名。昨年度までの数年間、「フリークライミングの実践」として久慈市侍浜にて講習会を行ってきたが、今年度は「アルパインクライミングの基礎」をテーマに開催した。

小雨交じりの天候ではあったが、岩の状態も良く講習を実施することができた。まず、ビレイの仕方、ランニングビレイの取り方を説明し、２人ペアになりリードとセカンドで交互に登った。残地ハーケン等にランニングビレイをセットしリードで登ることが初めての参加者も多く、緊張しながらのトライ。滑落する参加者もありヒヤリとさせられる場面も・・・。

次に、田所講師による、「ナチュラルプロテクション（ナチプロ）のセットの仕方」について講習を受ける。展勝地の岩場はナッツやカムをセットする良い場所がなく、岩壁下部の岩の割れ目を利用しての説明だったが、ナチプロで実践的なクライミングを行った参加者は少なく、大変参考になった。来年度の講習会ではナチプロでの実践的なクライミング講習にしたいと考えた。

続いて、テープアブミを使用してのエイドクライミングの講習を行った。田所、土井が実演し受講生が１回ずつトライ。初めての受講生は苦戦を強いられ途中でギブアップする方も・・・。足でアブミを巻き込み体を安定させること。また、より高いアブミの位置に乗りビレイヤーとの協力で次のボルトにセットする方法など実践的に学んだ。

最後にトップのクライマーが墜落し意識を失った想定で、ビレイしているセカンドがビレイの状態からメインロープを外し脱出するセルフレスキューについて田所講師が実演し、受講生が実際に行ってみた。最近まで「アルパインクライマー（ＡＣ）は絶滅危惧種」になってしまったか？と考えていましたが、最近では若いＡＣも増えてきてクラッシクルートにも人が戻ってきているようである。一方、かつては若かったＡＣの**高齢化による事故も増えている。もう一度アルパインクライミングの基礎・基本を見直し、最新の技術やセルフレスキューについての技術を身に着け、安全で楽しいクライミングを実践したいものである。**その意味においても大変有意義な講習会となった。

（報告　土井祐之）

沢登り講習会・指導員研修会
焼石山系の風呂沢で開催

８月９日（日）沢登り講習会・指導員研修会は、焼石山系の風呂沢で開催。

参加者は、土井祐之（講師）・中島隆之・駒ヶ嶺智裕（北上山岳会）、盛合敏男（福岡山好会）、田沼政司（盛岡 RCC）、吉田克彦（盛岡山想会）、松山貴章・菊池眞市（岩手アルペンローズ）の８名。

指導員資格の申請並びに検定の駒ヶ嶺・中島・

松山にビレーポイント確立と読図技術の習熟を研修目的とする。そのため３名が交代でトップを務める。今回の目的を確認して開講式を閉じる。

6:30 出発 725m。6:55 尿前沢 710m。まもなくルアーの男性２名と遭遇。7:05 本沢の滝で釣り人に先行。7:10 ハタシロ沢出合 730m。7:16 風呂沢出合。風呂蛇口 F1 は左側をへつる 745m。7:30F2。右から流芯にでて流れを登りつめる。深い滝壺をもつ F3 は強い雨脚でますます陰惨な印象。空身の駒ヶ嶺完登。松山最後の１手で完登逃す。後続は敬遠して左の浅い凹角にロープを固定。２mの滑る凹角をブッシュたよりに強引にぬける。8:12 右股に入ってまもなく F4 。8:45F4 完了。8:57F5。１段あがって滝手前右草付を高巻。途中にある２m の岩の通過で立ち往生。濡れたロープにセットしたプルージックが固いうえにロックが効かない。危険なのでアッセンダー等に切り替える。9:49F５高巻完了 860m。まもなく F6。２本の残置ピンを使って滝右をのぼる。この先は滑滝が連続して楽しいところ。F7 はぬるぬるの苔で滑る。ナッツやブッシュを絡めて滝上の流芯にでる。10:45F7 完了 900m。11:50F8 高度 930m。滝落ち口で沢は閉塞。15m 手前の右の草混じりの壁に取りつく。20 cm大の落石が吉田・菊池の靴にあたる。浮石の多い壁が要注意。群がるやぶ蚊が手の届きにくいヘルメット回りを集中攻撃。ブッシュ帯を横切り小尾根を乗り越し

て細枝を手掛かりに５ｍほど下降して流芯にもどる。12:35F9 高巻完了。12:55F10 滝右をのぼる 950m。待機していると雨に濡れた体にふるえが走る。このさき細かな板状節理の河床に２ｍ程度の小滝が連続する。13:31F11 流れの左を通過。

沢は狭まり水量も急減した。地図を読みながら枝沢を次々に通過していく。地形はゆるやかな平原状だ。細沢を覆うブッシュをかきわけながら進む。

14:20 細沢はついに湿原のお花畑にきえた。花に癒されながら湿原をつめる。ガスで見通しがきかないため周囲の地形がよめない。目標の独標 1202m をもつ尾根の輪郭さえ確認不能。このガスではコンパスと高度計にたよるしかない。先頭が GPS も併用しながらすすんでいく。長い湿原もやがて低木樹林帯に吸収されていく。コンパスで進路を 220 度に定めて樹林帯に突入。獣の住処へ不法侵入した気配が濃厚だ。警告のコールを交わしながらすすむ。木登り交じりの藪漕ぎになったとたんに歩みがにぶる。50m ほど樹林帯をこぐと痩せた尾根にでる。

14:37 密林の稜線 1180m。稜線下部の張り出し具合を見ると、独標 1202m の南 50m に達したようだ。予定より沢を１本左に踏み込んだことになる。

14:45 コンパスで方向を定めてここから直接ハタシロ沢へ下る。ブッシュを漕ぎながら開けた凹地をくだる。まもなく足元に細い雨列が刻まれこれに水が流れ出す。14:51 水芭蕉群落の広場。一面の水芭蕉はなぎ倒されて熊さんのお昼寝場所だ 1160m。笛やら大声でクマさんに人間の不法侵入を盛んにアピールする。ゆるやかな湿原を下るにつれて細い流れが確実に岩を噛みはじめる。ついにハタシロ沢の源流におりた。細沢を覆うブッシュを払いのけながら下るにつれて水量が増す。最初の左股は 50m ほど上流に雪渓。15:15 二番目の出合 1100m。開けた赤茶けた沢と合流。この左股を登り返す。次第に階段状にかわる。登山道まぢか。15:20 一息つきながら行動食 1165m。まもなく両岸に雪渓をもつガレ場。木道残骸が沢底に。ガレ場をやりすごす。GPS によると登山道と沢は並行。わずかな藪漕ぎで登山道だ。左の斜面に突入し細い稜線をまたぐとでた。

15:48 登山道 1230m。記念撮影。雪渓のガレ場を左に登ればそこが登山道だったのだ。ガスってさえしなければ見えたはずとは後の祭り。16:01 銀明水 1150m。甘露水をいただいてから 16:08 出発。入渓から降り続いた雨。皮肉にも中沼の下りで完全にあがる。若者４人組は元気よく先行。17:32 中沼駐車場 735m。早速閉講式。先陣を務めた３名の感想と土井講師の総括。ビレーポイントの確立と地点確認の所期の目的は達成できた。読図は全員が納得いくまで検討すべき旨を確認して解散。

（写真：盛合・松山、文責：菊池）

“山の日制定記念”
「ジュニア登山教室 in 岩手山 2015」報告

今年も「ジュニア登山教室 in 岩手山 2015」が７月 31 日(金)と８月１日(土)に開催されました。

今年は山の日が 2016 年からの制定されることを記念し“山の日制定記念”としました。参加者は７組 19 名（子供 12 名、保護者７名）スタッフは、小屋の管理人、協賛社石井スポーツの四戸さん等を含め 12 名となり、総勢 31 名となりました。昨年同様にチーフリーダーを川越さんにお願いしましたが、今年は班を任せるのではなく隊列全体を見る役目としました。開講式を前にスタッフ全員で集まり、川越さんより全員無事に下山させることの大切さをご教授していただき身の引き締まる思いでした。その後高橋会長、植田普及部長の出席のもと開講式を行い登山行動に入りました。

子供２班、大人１班の計３班とし、それぞれ佐々木四士美さん、三浦拓さん、渡辺良平さんをリーダーに登山行動に入りました。例年になく保護者の方の足取りが軽く、逆にトイレ休憩の多かった低学年の班が徐々に遅れ、全体として間延びしてしまいました。八合目では先に着いた川越さんがスピーカーで激励、また集団登山の高校生からアーチでの歓迎を受け全員無事に八合目到着しました。山頂は霧、翌日の予報の方がよかったのですが頂上を踏めるとの判断で山頂をめざします。頂上では子供達がオニヤンマを捕まえ大はしゃぎ、その勢いに押されたかのように天候が回復、

ときおり晴れ間が見えました。皆で記念撮影して下山。奥宮で地熱を体感、9合目不動平避難小屋も見学して無事に避難小屋まで戻りました。子供達とリーダー、保護者とスタッフと2回に分け食事を頂き20時消灯となりました。外はどんどん風が強くなっていきました。

翌朝はガス、風も強くご来光は見ることができませんでした。手早く朝食を準備し、食事をとった後はトイレ班と室内班に分かれて掃除を行いました。管理人さんに掃除をチェックしてもらい、その後管理人さんへお礼の挨拶をした後、下山行動に入りました。下山は新道を使いましたが、トイレ休憩等で低学年の班が徐徐に遅れ5時間半かかって下山完了しました。下山口では先に到着した保護者等がまたもやアーチで迎えてくれました。ストレッチを行った後の閉講式では修了証や記念品を受け取ってもらい植田部長の挨拶と閉会の言葉で全行程を終了しました。

今回は装備面では南捜の防災無線機を貸してもらい、さらには新しく3名の方にスタッフに経験してもらいました。さんさ踊りと日程が重なり参加者が少なかったのですが、来年以降参加者が多かったとしても十分なスタッフで望めるのではないかと思います。

（登山普及部　長畑）

県高校新人大会登山競技

学校対抗で
盛岡第一高校がアベック優勝
チーム対抗は盛岡工業高校が優勝
女子平舘高校二位に入る

来年の高校総体の前哨戦ともなる第51回岩手県高校新人大会登山競技は、去る10月8日(木)から10日(土)の3日間、早池峰山系の鶏頭山を中心に開催されました。初日の9日(金)は、開会式に続き、歩行、体力、2日目は、鶏頭山を目指して体力、装備、記録、歩行等の審査が行われました。

学校対抗では、男女とも盛岡第一高等学校が優勝。男子は二連覇、女子は4連覇を果たしました。チーム対抗では、盛岡工業チームが優勝。

学校対抗

男子

第1位　盛岡一高　95.9点
（白倉誠也、宮田大翔、田代初、広田哲史）
第2位　岩手高校　94.2点
第3位　盛岡工業高校、水沢高校　91.8点

女子

第1位　盛岡一高　98.0点
（佐々木薫、近谷岬、熊谷瑚斗子、山村あゆ）
第2位　平舘高校　83.7点
第3位　盛岡南高校　75.3点

チーム対抗

第1位　盛岡工業高校　92.2点
（下野裕真、吉弘雄哉、関口蓮、下田翔）
第2位　岩手高校　91.3点
第3位　盛岡南高校　85.3点

全日本登山体育大会報告

第54回を迎えた全日本登山体育大会は、万山紅葉の宮城県栗原市を中心とする栗駒山で全国から220人の岳友が集い開催されました。本県からは、日山協参与の矢羽々文一郎さん、滝沢市山岳協会の遠藤正紀会長、山口吉男事務局長、千葉豊会員が。高橋会長も日山協副会長として参加。全国の山仲間の皆さんと交流を深めました。コースは6コースに分かれての集中登山。

登山の日は、格好の登山日和。秋の澄み切った空に映えるカエデやブナ、ミズナラ等の黄色、赤、橙、緑の見事なコントラストの中を登山。山頂は、一般登山者も含め、渋谷や原宿を思わせるような登山者の数。今年最高の人出で賑わった秋の栗駒の一日でした。夜は鳴子温泉に一同集合。全国各地の地酒が飛び交う中、懇親が行われ大きな成果を収めて終了しました。東北は、青森6名、岩手4名、秋田1名、福島2名でした。来年の第55回全日大会は、島根県出雲神話の舞台「三瓶山」で11月4日から6日の間、開催予定。

なお、全日登山大会初日の全国参与会の会議の席上で、**当協会顧問の松尾寿氏に（公社）日本山岳協会から長年の協会の発展に寄与した功績が認められ感謝状が贈られました。**おめでとうございます。

スポーツクライミング
東京オリンピック追加種目推薦へ

新聞等の報道でご案内の通り（公社）日本山岳協会が国際クライミング連盟と一緒に立候補していたスポーツクライミングが 9 月 28 日開催の東京オリンピック組織委員会の追加種目推薦委員会で、推薦種目に推挙されました。

いよいよ正式種目へ向けて大きく前進しました。今回の推薦を受けて IOC では、来年 8 月にブラジルのリオデシャネイロで開催される IOC 総会に図り正式決定となります。

競技団体として引き続きスポーツクライミングの素晴らしさをアピールしていく必要があります。なお、現在想定されているのは、リード競技、ボルダリング競技、スピード競技の三種目による複合競技で、男子 20 名、女子 20 名で三種目のポイント合計で金メタルを目指して順位が争われます。

来年の希望郷いわて国体の時期には、正式決定の朗報のもと、大きな関心が集まるよう願いたいと思います。

ジュニアクライミング教室には、
オリンピックを目指す未来のアスリートが集結

スポーツクライミングの普及と将来の岩手の競技を担う、小学生以下を対象としたスポーツクライミング教室が毎月開催されています。10 月 20 開催の教室にも、ボルダリング施設いっぱいに子供たちが集まり、畠山副理事長や県立大、盛岡大の山岳部員にサポートしてもらい、果敢に挑戦していました。来年国体入賞を目指す少年男子、少年女子の強化選手やジュニアオリンピックで上位入賞している伊藤ふたば選手らは、皆この教室から巣立って全国の強豪と戦っています。岩手の明日を担う子供たちに声援を送りましょう。

選手強化部では、ボランティアでしかも少人数で学生の皆さんの協力で教室を運営しています。若手の皆さん、皆さんの協力をお願いします。

国体入賞のお土産に
岩手山荷揚げ登山プレセント？

10 月の和歌山国体で健闘した少年男子の山内響君と中島大智君が、国体の疲れを癒すことと、いつも応援して頂いている八合目山小屋スタッフへのお礼等を兼ね岩手山登山に招待され、畠山副理事長兼選手強化部長の案内で岩手山に挑戦。馬返しから薪を背負い、いつもの壁とは違った楽しみを体験しリフレッシュ。外輪からは、全国のつわもの達と戦うかのような強風にも負けず登頂。

八合目避難小屋では、植田登山普及部長ら管理人ら大歓待を受けるなど、紅葉の岩手山を楽しみました。正に、岩手県山岳協会が目指している登山とスポーツクライミングの融合のひと時を体感して頂きました。

ご苦労様。

左　中島君　右 山内君

岩手山八合目避難小屋を
冬季小屋へ切替え作業実施

平成 27 年 10 月 24 日（土）～25 日（日）岩手県山岳協会加盟団体の協力により、岩手山八合目避難小屋を夏季小屋から冬期小屋に切りかえました。

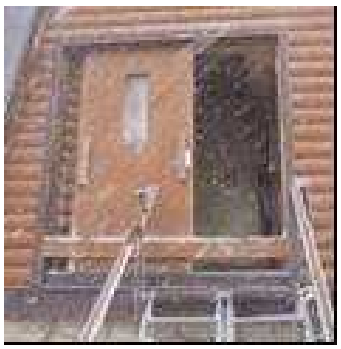
小屋正面入り口は、小屋の中への雪の吹込み防止のため二ヶ所とも閉鎖していますので、小屋裏側の冬季出入口を使用して下さい。

別棟の水洗トイレは凍結防止のため、来年の六月頃まで使用できませんので、小屋の中のトイレを利用して下さい。（登山靴は脱いで使用願います）

岩手山八合目避難小屋裏の出入り口

出入口の横板は引き戸の外れ防止ですので、壊さないで下さい。

引き戸の開閉は慎重にお願いします。（過去に引き戸が外れ雪が小屋に入り込むトラブルが有りました）



小屋の中はガス以外は使用禁止です。

食事や飲酒後のゴミ等持参したものは、全て持ち帰り、お互いに気持ちよく使用できるようにお願いします。今年度も登山者が昼食時に食べたゴミを小屋の中に置いていきました。

ストーブは取り外しています。

御成清水

御成清水は凍結防止のため、来年の六月頃まで止めています

水涸れや管が凍結しない限り、水場の後ろのパイプから流していますが、念のため各自飲み水は持参願います。

岩手山八合目避難小屋管理責任者より

小屋での大きなトラブルは有りませんでしたが、10月12日（月）寒さの中山頂付近で体調を崩した登山者を、他の登山者が協力し小屋に収容して処置を行いましたが、亡くなるという痛ましい事故が発生しました。　寒さ対策等装備は事前にチェックを行い同種事故坊を図って下さい。

八合目避難小屋関係

1　10月18日（日）をもって小屋管理も無事今シーズ終えることが出来ました。

関係した、山岳協会加盟団体、加盟団体各会員には心から感謝いたします。

夏季小屋から冬季小屋への切替も10月24日（土）～26日（日）高橋県山協会長を初め、各山岳会会員の協力をいただき、雪が降るなか無事終了しました。

・協力山岳会

巌鷲山岳会　7名、アルペンローズ山岳会　2名
滝沢市山岳協会　1名、盛岡山想会　1名
盛岡ＲＣＣ　1名、ﾊｲｴｽﾄｶﾝﾊﾟﾆｰ山岳会　1名
釜石山岳会　1名、岩大山の会　1名
県山協会長・副会長　3名、指導部　1名
登山普及部　5名　　計24名

ご協力いただいた方々ありがとうございました。

2　平成27年度岩手山八合目避難小屋の利用状況

宿泊した登山者の状況を見ると、大人が対前年－507人、高校生等は＋95人で大幅な落ち込みでした。今年度は手拭の売上状況を見ても対前年－660枚と落ち込んでおり、登山者が少なかったと思われます。

3　その他

①今年も食べ残しのゴミを捨てていった登山者がいた。
②薪置場に缶ビールの空き缶
③薪置場は常に整理・整頓を
④外トイレへ行く古い毛布保管場所の隅に、食べ残し等。

お互いにマナーを守って、楽しい山行を心がけましょう。

日山協山岳保険に入ろう

日山協の山岳保険は、年度中途でも加入できます。多く

の山岳保険がありますが、日山協の山岳保険は、登山ばかりではなく、日常生活でのケガも対象になります。また、ボルダリングやリード壁等でのロープを使用したクライミングもピクニックコースで比較的負担の少ない掛金での加入ができる等の利点もあります。また、万一の賠償責任保険も加味されています。更に、加入者数によって山岳協会への還付金等もあり、万一に備えての加入をお奨めします。**年の中途での加入もできます。**

詳しい内容を知りたい方及び加入希望の方は、県山岳協会事務局へお問い合わせ下さい。

第６回理事会報告

平成27年9月16日（水）第6回常任理事会が会長等常任理事 24 名の出席のもと県体協会議室で開催され、次の内容について協議しました。

事務局関係
・平成27度県体育協会功労賞推薦について
事業部関係
・県民体育大会及び国体選手選考会報告
・加盟団体交流会報告
・トレイルランニング大会報告
指導部関係
・8月9日（日）沢登り講習会・指導員研修会報告
・8月29日（日）岩登り講習会・指導員研修会報告
・9月11日（金）～13日（日）文登研山岳ﾚｽｷｭｰ講習会
・10月12日（月）クライミング認定会について
登山普及部関係
・9月12日～13日自然保護委員総会報告
・7月31日～8月1日ジュニア登山教室報告
・岩手山八合目避難小屋関係
選手強化部関係
・達増知事国体選手激励強化合宿視察について
5月21日（木）県総合運等公園　強化選手監督コーチ、会長、理事長等対応
・和歌山国体選手監督決定について
国体推進部関係
・わかやま国体抽選会視察報告
・わかやま国体への視察員派遣について
・10月25日（日）国体競技役員全体打合せ会について
高体連関係
・全国高等学校登山大会報告
・後期登山基礎講習会について

第７回理事会報告

平成27年11月5日（木）第7回常任理事会が会長等常任理事 24 名の出席のもと県体協会議室で開催され、次の内容について協議しました。

事務局
・県体協体育功労・日体協スポーツ指導員表彰関係報告
・インターハイ・国体報告会及び選手激励会
12月12日(日)　15時15分～　サンセール盛岡
・名誉会員・顧問懇談会
12月12日(日)　13時～　サンセール盛岡
事業部
・第13回クライミングビギナーズコンペ
12月20日(日)　9.40開会
花巻市大迫体育館クライミング場
指導部
・初冬期講習会
12月5 日(土)　早池峰山域
・冬山講習会・研修会
平成28年2月13日(土)～14日(日)
岩手山　相の沢コース
・指導員会富士山研修
11月20日(金)～23日(月)　富士山
登山普及部
・岩手山八合目避難小屋冬季管理へ移行報告
選手強化部
・和歌山国体報告
・岩手国体ボルダリング競技壁移設、設置の要望書の提出について
・アジアユース選手権日本代表選手派遣について
伊藤ふたば選手の派遣承認
12月1日～7日 マレーシア　クアラルンプール
・2016ユース　オリンピックに向けてイタリア合宿への選手派遣の承認
伊藤ふたば選手
平成28年1月3日～13日 イタリア　トリノ
・ユース選手派遣強化募金の開始を決定
国体推進部
・希望郷いわて国体役員研修会の開催
・今後の日程
27.11.22　第13回岩手県ボルダリング大会
28.3.20　第9回ボルダリング選手権大会
28.6.10～12 いわて国体山岳競技ﾘﾊｰｻﾙ大会
28.6.25　第67回県民体育大会山岳競技
28.10.5～9　希望郷いわて国体山岳競技
高体連
・新人戦報告
・岩手県高等学校クライミング選手権大会報告

・高校生の冬山登山の禁止について報告

経過報告

7/31(土)～8/1(日)	ジュニア登山教室 in 岩手山 2015
8/5(水)	第2回評議員会
8/7(金)～11(火)	全国高等学校登山大会
8/9(日)	沢登り講習会・研修会
8/13(木)～16(日)	ジュニアオリンピック
8/29(日)	岩登り講習・研修会
9/16(水)	第 6 回常任理事会
9/17(木)	日山協常任理事会
9/25(金)-27(日)	登山基礎講習会(後期)
10/2(金)-5(月)	第 70 回国民体育大会
10/8(木)-10(土)	第 51 回岩手県高等学校新人大会
10/9(金)-11(日)	第 54 回全日本登山大会
10/18(日)	岩手山八合目避難小屋常駐終了
10/24(土)-25(日)	岩手山八合目避難小屋冬小屋切替
10/28(水)	第 6 回部長会
11/1(日)	第 6 回岩手県高校生クライミング大会
11/5(木)	第 7 回常任理事会
11/8(日)	いわて国体競技役員全体打合せ会

今後の予定

11/22(日)	第 13 回ボルダリング大会
11/28(土)-29(日)	東北ブロック会議・日山協ブロック研修会
12/5(土)-6(日)	初冬期講習・研修会
12/12(土)	第 7 回部長会
	名誉会員・顧問懇談会
	滋賀インターハイ・和歌山国体報告会
12/20(日)	第 13 回クライミングビギナーズコンペ
12/23(水)-24(木)	第 6 回全国高等学校選抜クライミング大会
1/13(水)	平成 27 年度会計監査
1/18(月)	平成 28 年度第 1 回部長会
1/20(水)	平成 28 年度第 1 回常任理事会
1/27(水)	平成 28 年度第 1 回評議員会
2/6(土)	平成 28 年度定期総会

2016 希望郷いわて国体山岳競技情報⑪

紀の国和歌山国体視察報告

希望郷いわて国体を 1 年後に控え、協会では運営等の視察のため視察団を送りました。視察には、高橋会長、小山理事長、植田登山普及部長、村上、土井、竹田、中村の各理事等。視察団は、2 日現地入りし、会場近くの公民館をベースに視察。5 日までの 4 日間、総務関係、競技関係、宿泊関係とそれぞれ分担して、地元和歌山岳連の案内で舞台裏まで説明を受けました。

主な視察内容

① ボルダリングは小学校の体育館内、リードは南部高校に常設。競技会場間の移動は 5 分程

② 監督会議、トロフィー返還式、毎日行われる午前 7 時の朝礼、午後 6 時の終礼、大会本部視察、表彰式、アイソレーションルーム、選手の動線の確認、雨対策、タイムスケジュール、大会旗引渡し式、選手監督の計画輸送

③ 運営全般、市の実行委員会との役割分担、市実行委員会との役割分担

④ 和歌山県内岳連関係役員 計 170 名

※岩手県の役員予定数が現在 124 名であり再検討が必要。総合表彰式が根仮設テント内となることから夜間照明、防寒対策が急務。と感じた。

本番まであと 11 月「希望郷いわて国体山岳競技運営役員全体打合せ会開催

来年 10 月開催の希望郷いわて国体も、和歌山国体閉会式で、高橋会長が和歌山岳連会長から大会旗の引き継ぎを受けいよいよ本番に向けての準備が始まりました。

11 月 8 日(日)にサンセール盛岡で競技役員全体打合せ会が開催されました。会議では、各係役員の配属確認。和歌山国体のビデオでの全体の流れを確認、会場配置の確認、大会日程、各係りの任務、大会全体像の把握等を研修しました。今後は、各部署ごとの**研修や計画書の作成等細部にわたる準備に入ります。**